

古民家新聞

匠を感じる住まい

vol. 27

夏も終わりと申しながらまだまだ暑い日が続いております。いかがお過ごしでしょうか？

もう2か月も前、夏が始まったばかりの6月26日に、三重県伊賀市にて、全国古民家再生協会中部地区大会が開催されました。岐阜・静岡・愛知・三重県の再生協会の会員を中心に23名の方が参加してくださいました！

会員同士の交流も兼ねて、メインは伊賀上野公園の散策。その中でも重要文化財の『俳聖殿』の評判が良かったので、ご紹介します！



俳聖殿の外観

100年後は三重県初の国宝候補?!

俳聖殿でまず目に飛び込むのは独特な形の波打った丸い屋根。実はこれは松尾芭蕉の旅笠の形に着想を得たもの。松尾芭蕉の生誕三百年を記念して昭和17年(1942)に川崎克氏を施主として、伊藤忠太氏による設計指導、そしてメインの設計は地元大工の島田仙之助氏、施工は同じく地元の数寄屋大工の森本源吉氏によって造られました。

約2年間、大工の森本氏のご息と共に現場のわきに建てた掘立小屋に寝起きしこつこつ完成させたといえます。また、平成16・17年に屋根の檜皮葺の葺き替えが実施されているのですが、その工事費用1億8500万円！それほど密度濃く丁寧にヒノキの皮が葺かれているというところがこの値段からも垣間見えますね。建築面積は190.13㎡(57・52坪)、八角形平面



俳聖殿の内部には伊賀焼の等身大の芭蕉座像が安置されています

面の1階に、円形平面の2階がのつています。完成後、伊藤忠太氏は「この如き類例のない日本建築は建築美術の上の標本として将来残るものであり、これは必ず国宝に指定されるべき性質のものである。」と述べており、この俳聖殿がずっと愛される建物であってほしいなと願うばかりです。

【俳聖殿】
伊賀市上野丸之内116番地

樹齢600年の大杉を見に行くなら!

こちらも伊賀市内にある隠れ銘木スポット「木の館 豊寿庵」。2月の盆梅展からはじまり、しだれ梅・しゃくなげ・紫陽花と6月までお花見を楽しむことができるほか、お花見の間中は館内の木の博物館を愉しむことができます。

こちらの写真は、樹齢600年の大杉の原木。こんなに大きい原木を展示しているのは日本でもここだけだとか。木の博物館全体も目を見張るほどの銘木がいたるところに使われていて圧巻です。ぜひ来年のお花見シーズンの計画に入れてみてくださいね。

【木の館 豊寿庵株式会社】
三重県伊賀市川北362-1



お問い合わせは

一般社団法人 三重県古民家再生協会

〒510-8016 三重県四日市市富州原町10-6 TEL059-366-3833 FAX059-361-1717 mail info@tap-s.com

kominka-mie.org